

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2017年4月2日（日）

主 題：「神のことばは永遠に立つ」

—聞く耳のある者は聞きなさい—

テキスト：イザヤ書40章8節

はじめに

- ・2017年度の第一聖日礼拝を迎えました。
今年、私たちに与えられた神のみことばはイザヤ書40章8節です。
「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」
- ・世の中の万象は常に移り変わり、非常に激しいものがあります。
インターネットの急速な発展に伴い、ニュースや情報は瞬時に全世界に流れます。中にはフェイク・ニュースもあり、何を信用したらよいか分からなくなるほどです。そして今新しいものが、少し時間が過ぎれば、もう古くなってしまいます。まさしく、草や花が枯れたり、しぼんだりするようです。
- ・BC8世紀（BC745～695）、イザヤは、神の命を受けて立てられた預言者でした。彼は次のように神の声を記録しています。
40:6 「呼ばわれ。」と言う者の声がある。私は、「何と呼ぼうしましょう。」と答えた。「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。
40:7 主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。
- ・つまり、ここで言われていることは「有限」と「無限」の対比です。
この世の中の全てのものは有限であり、必ず終わりが来ます。しかし神は無限であり永遠に存在するお方です。神だけが永遠であり、その神が与えてくださった「みことば」も、永遠に続くものと聖書は語ります。
- ・私たちは、この永遠から永遠につづく神のみことばから、人生でかかえる問題と必要の回答をいただくことができます。すなわち、神のみことばをいただくことによって、永遠の神を知ることができるのです。すべてのものが移り変わる世の中で、神は確かで不動の「神のみことば」を与えてくださいました。なんという幸いではありませんか。
- ・2017年度、私たちは永遠に立つ神のみことばを信頼し、信仰生活、教会生活を送りたいと願います。では、永遠に立つ神のみことばとは、いったいどんなもののでしょうか。今日は次のポイントから学びましょう。

大切なポイント**1. 「神のみことば」はむなしく帰らない**

預言者イザヤは次のように言いました。イザヤ書

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を

成功させる。

- 多くの人が聖書を読んでいます。ある人は「聖書は座右の書、人生の指針である」と言います。そこには自分の人生があり、必要に応じて聖書を開き参考にします。そういう読み方もあります。しかしイザヤが預言したみことばは、そういう意味でしょうか。
- いいえ、もっと深い意味があります。聖書は参考書的な読み方を越える大いなる書物です。それは聖書の中心が、ひとりのお方イエス・キリストにあるからです。

1) 神のマスタープラン

- 聖書はイエスの来臨を、旧約聖書時代から預言してきました。それはイスラエルの歴史を通し、人類救済の大いなるマスタープランを提示しています。
- 旧約聖書は、アブラハム契約から人類の祝福が始まります。すべての祝福は、このアブラハム契約から始まりました。神はアブラハムからその子孫を造り、神と人との関係の「型」とされました。そして神のことばの約束は、決して無に返るものではないと言われました。

「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

- 次に神は、預言者をとおしてイスラエルを導いてこられました。数多くの預言者が立てられ、「神のことば」をイスラエルの民に伝えました。しかし肝心のイスラエルの民は、不従順であり、ある時は無関心でした。しかし神は忍耐と愛をもって民がご自身のもとに帰ることを切願されました。
- そこで天父神は、イスラエルの民と全人類の救いのためにメシア（救世主）送ると預言されました。それが有名なメシア預言（イザヤ53章）です。神は預言者イザヤを通し、メシア来臨の預言を提示されました。しかしユダヤ人の多くの顔には、顔おおいがかけられ、神のお心が分らず今日に至っています。
- しかし今から約2000年前、神の時は満ちました。天父神はイエス・キリストをメシア（救い主）として、この世に送られました。そして御子イエスの十字架と復活によって、人類の救いが成就しました。
- 新約聖書は、イエス・キリストの生涯、神の救い、救いに与った聖徒と、その後建てられたキリストの教会の詳細について記録されています。とくに4福音書は、イエス・キリストの公生涯について、4人の愛弟子によって詳しく記録されました。聖書はこのように、旧約聖書&新約聖書でひとつです。そして、神のマスタープランについて書いています。

*神はこのようにして、ご自身のお心を記録させました。⇒「聖書」
それは後世の者が誤った方向でなく、正しい道へ進むためです。

2) 信じる者に語る「神のみことば」

- イエスを信じる人に、神は永遠の救いを与えられました。そればかりではありません。信仰によって救われた私たちが、「神のことば」（聖書）によって神を知ることを善しとされたのです。

- ・では、「神のことば」とは、どんなものでしょうか。いくつかの点を考えてみましょう。

① 神の力：

1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知る事ができますように。
エペソ

- ・信仰をもって聖書のことばを聞き、そして一步踏み出す時に、神は思いも及ばない全能の力を私たちの上に働かせてくださいます。その時、主の御手を見ることができます。

{例 話} 和歌山で出会ったあるユダヤ人青年

- ・もう随分前のことですが、私が和歌山で伝道していた時代のことです。一人のユダヤ系米国人青年が、英会話学校で教師として働いていました。彼はユダヤ教徒で信仰熱心な人でした {今思えば、正統派ユダヤ教徒ではないか}。
- ・ある時、彼は私にユダヤ教とキリスト教について話したい、と言ってきました。お茶を飲みつつ談笑後、キリスト教とユダヤ教の話しになりました。当時の私にとって、神学的内容を外国語で相手に説明することは容易ではありませんでした。そこで先ず私は、彼に一冊の英語の新約聖書を贈呈しました。
- ・それからしばらくして。私は彼にさらに一冊の本を贈りました。それは当時米国でベストセラーとなった本、” Jesus Christ is more than carpenter” (題名：イエスは大工以上のお方)でした。受けとってくれた彼は、その本を一気に読んだようです。
- ・そこで不思議なことが起こりました。新約聖書の一番はじめに、イエス・キリストの系図が書かれています。それはイエス誕生までの歴史、つまり紀元前のユダヤ人の歴史が書かれていることに、彼の心が集中しました。ふつう宗教熱心なユダヤ人は、トララー以外は読みません。しかし彼はその本を読んでいく中で、彼はイエスがキリスト (メシア) であることが分かりました。不思議です。ただ新約聖書を読んでいく中で、分ったのでした。きっと聖霊が直接働いてくださったと信じます。
- ・彼は指導者なしで、イエスをメシアと信じました。すると彼はその後すぐに、英会話教師の仕事を辞めて、米国へ帰って行きました。彼はすばらしい神の民となったことを喜び、それを誇り、神を崇めました。彼は聖書を読むことから、神の偉大な力とすばらしさを知りました。彼の人生は変えられました。これはユダヤ人の青年の回心劇です (異邦人とは違う)。
- ・私はそれ以後、彼には会っていません。今、彼がどこにいるか不明ですが、ひとつのことを言うことができます。それは1冊の本を通して、彼は聖書を読み、そして神の力を知ったことでした。

- ・皆さん。聖書のことばには、人の人生を変える力があります。神は今日も生きておられ、求める心をもって読むならば、必ず神は応答くださるお方です。

1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知るこ

とができますように。

エペソ

② 神の慰め：

107:20 主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを
助け出された。 詩篇

- ・今日私たちが持っている礼拝では、奏楽、賛美、証し、そして説教などあります。その中でも最も多くの時間をとるのは「神のみことば」である聖書の説き明かしです。また個人礼拝（ディボーション）においても、私たちは神の前に心静め、神にお祈りし、そして「神のことば」である聖書を開きます。
- ・そこで「神のみことば」を霊の耳で聴き取ります。教えられ、慰められ、勧めのことばをいただき、主に応答するものです。その基本は癒されることです。なぜなら主は癒し主だからです。
- ・「神のことば」には①知的部分 {知識として得る} と、②意志的部分（教えられことを実践する）と、③情緒的部分があります。その情緒的部分、それが癒しです。癒される礼拝、癒されるディボーションでなければ長続きはしません。心が癒されることこそ大切です。なぜなら、人の心はそれほど疲れ、傷つき、ある時は病んでいるからです。

- ・では、癒される礼拝、ディボーションの秘訣は何でしょうか。

⇒それは「臨在の主に出会う」ことです。

罪人である人間が聖なる神に出会うならば、その聖さのゆえに人は癒されます。その時、「神のみことば」は単なる文字ではありません。自分に語りかける慰め、励まし、癒しのことばとなって迫ってくるのです。

- ・「神のみことば」に御霊が臨んでくださる時、聖書のことばは生きて働き、自分に働いてくださいます。なんという幸いではありませんか。

107:20 主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを
助け出された。 詩篇

③ 神の勧め：

8:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。ヨハネ

- ・師匠である主の「みことば」にとどまる、それは弟子であるキリスト者のあるべき姿です。みことばにとどまるとは、どういう意味でしょうか。命令（互いに愛しない、十戒等）を守るということでしょうか。その意味も一部あるでしょう。
- ・しかしそれだけではありません。主が語られた幸いな神の御国、その世界、主の愛と主の主権の及ぶ中に身を置くことです。聖書はこう述べています。

2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。 I ヨハネ

- ・すなわち、この世の価値観に身を置くのではなく、神の国の価値観に生きる人生です。それが「わたしのことばにとどまる」ということです。つまり、それが「神のことば」に ⇒ 従順であるということです。
- ・さらに神が望んでおられることは、何でしょうか。それはイエスが御霊として、私たちの内に住んでくださることです。イエスが内住してくださる時、それが証の力となるのです。ヨハネの福音書
7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」ヨハネ
- ・「わたしのことばにとどまる」⇒神の国の価値観に生きる人のことです。それは有限ではなく無現の世界であり、幸いな人生です。

④ 永遠のいのちに生かされる

17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。ヨハネ

- ・「神のみことば」を知るならば、自分がこのようなすばらし神の子どもであることを知り、喜びが湧き出て、神を崇めるようになります。私の知った方が、こう言いました。イエス・キリストを知ることは、「幼児が突然、10億円もの小切手を遺産としてもらうようなものだ。」
- ・すなわち人生の規範として聖書を読むことから、さらに進んで、人間の根本的課題である救いを得て、このお方と人格的に交わるようになることです。そして日常生活で、主である神の力を実感し、神を崇めることです。それが、永遠のいのちに生かされるキリスト者です。
- ・そこで大切なことがあります。それが第二のポイントです。

2. 蒔かぬ種は生えない

- ・イエスはマルコの福音書4章3－9節で、「種蒔きのたとえ」を話されました（どうぞ、聞いてください）。そこには種である「神のことば」を聞いた、4種類の人の心について書かれています。①道ばた落ちた種、②薄い岩地に落ちた種、③いばらの中に落ちた種、④よい地に落ちた種、です。
- ・イエスに出会った私たちは、私たちの心の石を取り除き、いばらを刈り取ってくださった農夫（天父神）に、心から感謝するものです。そうでなければ、こだわりの強かった私に福音の種は生えなかったでしょう。蒔かれた種の収穫は、30倍、60倍、10倍にもなり、農夫の喜びはどれほどであるでしょうか。
- ・そこでイエスは言われました。
4:9 「聞く耳のある者は聞きなさい。」

- ・ところが、そのすぐ後の説明のくだりで、イエスはこう言われました。
4:21 また言われた。「あかりを持って来るのは柀の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。」マルコ
- ・この文脈で、イエスが最も言いたかったことは、実はここにあったのではないかと思います。あかりはキリストの福音です。それを柀や寝台の下に置き忘れてはいないか、注意しなさいと私に語られたのです。そして日本のことわざである「蒔かぬ種は生えぬ」を思い出しました。
- ・私は教会の牧師として、皆さんが福音を宣べ伝えるように、旗振り役をしているはずですが。しかしいろいろな理由をつけては、旗振り役を休んでいたことを教えられました。そして、さまざまなことを考えさせられ反省しています。
- ・どのようにして旗をふろうか？ 個人的にはどのように形で、誰に証をしていこうか。兄弟姉妹があかりを寝台の下に置いたままにしないためには、私はどう勧めればよいだろうか。口で語る以外に、何か別の方法はないだろうか・・・等々です。これは「神のことば」を通して、私に語られた警告でした。
- ・いかがでしょうか。私たちは「神のことば」を、どう受けとめているでしょうか。2017年度の北浜チャーチの年間聖句は、「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」（イザヤ40:8）です。
私たちは、多面的に働いてくださる「神のことば」を、この年にもっと味わわせていただこうではありませんか。

ま と め

主 題：「神のことばは永遠に立つ」

—聞く耳のある者は聞きなさい—

- ・私たちは今日、2017年度の年間聖句から「神のことば」について聞きました。
「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」
私たちの成長は「神のことば」によります。30倍、60倍、100倍の実（祝福）をもたらす秘訣は、みことばを受け入れる心にあります。
 - ・永遠にたつ「神のことば」を信頼し、歩む人生は幸いです。
皆さん。種には問題はありません。種は永遠にたつ「神のことば」です。
私たちが神の祝福を受けて成長する鍵は、どこにあるでしょうか。
1. 「神のことば」を信じること
それは私たちが持つ個人礼拝（ディボーション）、聖日礼拝を継続するかどうかにかかっています。礼拝が重んじられる所に、主はご臨在くださいます。
 2. 「神のみことば」を経験すること “Experience the Word of God”
個人礼拝、聖日礼拝を継続できるポイントは、自分が「神のことば」を経験し（味わう）、分かち合う場をもつかどうかにかかっています（証）。
- ・主は次のようにお語りくださっています。

4:9 「聞く耳のある者は聞きなさい。」

4:21 また言われた。「あかりを持って来るのは柵の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。」マルコ

* God bless you!